



令和3年11月ギャラリーピアッサ展「ふわもこの会」より 飯沼悦子・船坂里美 制作



令和4年1月1日現在	
総人口	12,461人
男	6,084人
女	6,377人
世帯数	5,355世帯
島内公民館 電話	47-0264
FAX	40-1264

新

新しいことに
寅イ!!



簡単でおいしい♡
料理で交流

12月16日、食生活改善推進協議会の島内会員8名を講師に、男性のための料理教室が

開催されました。参加した15名は、日頃台所に立つことが少ない方が多く、最初にレシピ表で一つひとつの調理手順を確認しました。次に、講師が各テーブルに2名ずつ入り、「サバ缶とピーマンのみそ炒め」や「缶詰めでつくるミネストローネ」など4品を作りました。今回は比較的簡単にできる料理が多く、調理しながら

おかずにはプラス1品&晩酌の肴にぴったり😊

サバ缶とピーマンのみそ炒め

材料 サバ缶(みそ煮)1と1/2缶、ピーマン4個、しょうが適量、ごま油大さじ1

- ①ピーマンのへたと種を除き、1cm幅に切る。しょうがは千切りにする。
- ②サバ缶は身と汁に分ける。
- ③フライパンにごま油を入れ、しょうが・ピーマンの順で炒める。
- ④サバ缶の身を入れて崩しながら炒める。缶汁を加え汁気が無くなるまで炒めて完成。

楽しく交流していました。60代参加者は「簡単にできる料理が多く、特にサバ缶料理は晩酌の肴にも良さそう。自宅でも作ってみたい」と話していました。



いにしへの道しるべ(道標)

歴史の宝庫
鯛の来た道

松本では年取りに鯛を食べる習慣があります。野麦街道は富山から鯛が運ばれた道ということで「鯛街道」とも呼ばれています。

現在の国道158号線とほぼ同じ経路で、渚から伊勢町に至るのですが、島内を通る支道もありました。道は、ほ場整備や高速道により往時をたどれない所もありますが、新橋から奈良井川沿いを南に向かい、水源地を右折し松島、小宮を通り本道に合流します。江戸時代・旧暦12月、飛騨高山では鯛市が開かれ、競り落とされた鯛は野麦峠を越え、街道をたどって運ばれました。この鯛は「飛騨鯛」と呼



ばれる高級品となり、鯛一尾が米一俵と同じ値段だったそうです。松本のみならず、木曾や伊那谷へも鯛は運ばれました。



切り絵の紙芝居 「しまうちのとりいび」

島内地区町会連合会は「将来の地域を担う子どもたちや、転入してきた人たちなどに、地域の歴史や文化財・伝統行事を伝承していきたい」と、地元住民が文章や切り絵を手掛けた「島居火」を紹介する紙芝居を作りました。

同連合会は、平成25年に下田地籍に伝わる民話「泉小太郎の話」の紙芝居を製作しており、本作品は地域の題材を扱った2作目となります。

島居火の行事は、毎年4月14日から16日の3日間、町・東方・北方の3町会が、一日ずつ順番に異なる火文字を、鳥居山の西急斜面に描く勇壮な火祭りです。平成4年に、

松本市重要無形民俗文化財に指定されています。

紙芝居は、島居火に参加する親子の会話を通して、歴史や成立ち、祭りの概要を11枚にまとめて紹介しています。

文章を担当した胡桃孝好さん(青島)は「子どもたちが興味を引くように、史実とは異なると思われる言い伝えも取り入れた」、切り絵を作った青木昭博さん(町)は「島居火に参加している体験を活かして、子どもたちに伝わるように色や描き方を考えた」と話していました。

また、昨年の「第2回島内文化ふれあいまつり」ではスクリーンに映し出し、公民館図書視聴覚委員の読み聞かせにより、お披露目されました。会場に集まった約70名は、地域の伝統行事に興味深く見入っていました。

図書視聴覚委員長の牧垣智子さん(南中)は「地域の伝統や文化の関心を高める一端を担うことが出来てうれしかった。お話しのお会などでも活用したい」と目を細めていました。

なお紙芝居は、既に小学校などで活用されていますが、借用を希望される方は、島内公民館までご連絡ください。

藍染で私だけの 手ぬぐい制作

昨年秋に平瀬古城会は、会員等を対象とした藍染体験会を、白木染工場(新橋)で開催しました。作業工程は、手ぬぐいを発酵させた藍染液に何度かくぐらせ、湧水で洗ひ、定着液に浸すと完成です。模様は、手ぬぐいを巻いたり、洗濯バサミで止めたりして藍染液につけると、染まり方に違いができてオリジナルの柄になります。

参加した70代男性は「手ぬぐいを頭に巻いて、第2回狼煙まつりに参加するのが待ち遠しい。工程が簡単で、子どもたちにも体験してほしい」と話していました。

また、同会では3月頃の完成を目指し、笹井酒造(新橋)の協力により、オリジナルの酒づくりの計画もあります。



平瀬城跡狼煙まつり DVD貸出します!!



10月9日(土)に開催された、狼煙まつりのDVDが完成しました。平瀬城跡での狼煙上げ・火縄銃演武・太鼓演舞、空撮による上空からの映像など、イベントの様子が記録されています。

借用を希望される方は、公民館窓口(TEL47-0264)でお申し出ください。

※本数に限りがありますので、事前にお電話でご確認ください。

わたしたちの活動 ④ 「青島ゆうゆうクラブ」

当クラブは、昭和37年に発足以来、「自分たちの生きがいづくりと社会貢献」を目的に、現在80名の町会民が活動しています。

現在はコロナ禍の影響で活動を縮小していますが、茶話会や蕎麦打ち交流会、親睦交流会の旅行など、和気あいあいと会員間の交流を図ってきました。

また、平成12年のJR大糸線島内駅無人化に伴い、地元鉄道施設の環境保全の重要性について、会員から意見が出されました。そこで、社会奉仕活動の一環として、除草作業や花壇整備等を行ってきました。

この度、多年にわたる鉄道事業への奉仕活動が認めら

れ、昨年10月20日、国土交通省北陸信越運輸局長表彰の栄誉を受けることができました(写真)。これも、先輩方々の努力の賜物と感謝しています。

近年、当クラブ会員は減少傾向にあり、運営への厳しさを感ずる昨今ではありませんが、培った活動を絶やすことなく、次代へつなげていきたいと考えています。

会長 小原 祐二

